

#4
2742
Docket No. 1046.1210/JDH

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:

Yoshinobu NAKAMURA—

Serial No.: 09/502,791—

Filed: February 11, 2000 —

For: LABEL ADDRESS TRANSLATING DEVICE—

Group Art Unit: To Be Assigned

Examiner: To Be Assigned



RECEIVED
JUN 15 2000
TC 2700 MAIL ROOM

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

*Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231*

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, Applicant submits herewith a copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-009955, filed January 13, 2000.

It is respectfully requested that Applicants be given the benefit of the foreign filing date, as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,
STAAS & HALSEY, LLP

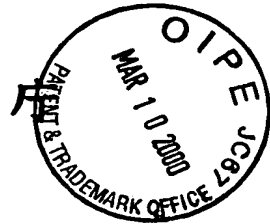
Dated: March 8, 2000

By: _____

James D. Halsey, Jr.
Registration No. 22,729

700 Eleventh Street, N.W.
Suite 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



0P864

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年 1月13日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-009955

出 願 人
Applicant (s):

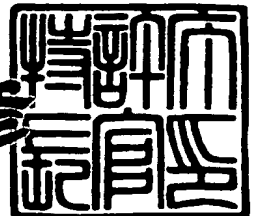
富士通株式会社

RECEIVED
JUN 15 2000
TC 2700 MAIL ROOM

2000年 2月18日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3008506

【書類名】 特許願

【整理番号】 0050036

【提出日】 平成12年 1月13日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 9/00

【発明の名称】 ラベルアドレス変換装置、ラベルアドレス変換方法及び
コンピュータ可読媒体

【請求項の数】 7

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都稲城市大字大丸1405番地 株式会社富士通パ
 ソコンシステムズ内

 【氏名】 中村 好伸

【特許出願人】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100089244

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 遠山 勉

【選任した代理人】

 【識別番号】 100090516

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松倉 秀実

 【連絡先】 03-3669-6571

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 平成11年特許願第 41430号

 【出願日】 平成11年 2月19日

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 012092

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705606

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ラベルアドレス変換装置、ラベルアドレス変換方法及びコンピュータ可読媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換装置であって、

前記プログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られているか否かを判断するプログラム処理手段と、

前記プログラム処理手段により前記ラベルからアドレスが得られていないと判断されたときに、例外処理により前記ラベルからアドレスを得て、該アドレスを前記プログラムに書き込むラベルアドレス変換手段と
からなるラベルアドレス変換装置。

【請求項 2】

前記ラベルアドレス変換手段は、前記ラベルと前記アドレスとの関係を示すテーブルを用いる請求項 1 記載のラベルアドレス変換装置。

【請求項 3】

前記プログラム処理手段は、前記ラベルによって示されるアドレスが実アドレスでないとき、前記ラベルからアドレスが得られていないと判断する請求項 1 記載のラベルアドレス変換装置。

【請求項 4】

プログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換方法であって、

前記プログラムを処理する第 1 のステップと、

前記第 1 のステップによる該プログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られたか否かを判断する第 2 のステップと、

前記第 2 のステップにて前記ラベルからアドレスが得られていないと判断された場合に、例外処理により前記ラベルからアドレスを得る第 3 のステップと、

前記第 3 のステップにて得られたアドレスを前記プログラムに書き込む第 4 の

ステップと

を含むラベルアドレス変換方法。

【請求項 5】

前記第 3 のステップは、得るべきアドレスを、前記ラベルと前記アドレスとの関係を示すテーブルから読み出す請求項 4 記載のラベルアドレス変換方法。

【請求項 6】

前記第 2 のステップは、前記ラベルによって示されるアドレスが実アドレスでないとき、前記ラベルからアドレスが得られていないと判断する請求項 4 記載のラベルアドレス変換方法。

【請求項 7】

コンピュータを、第 1 のプログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換装置として機能させる第 2 のプログラムを格納したコンピュータ可読媒体であって、

前記第 2 のプログラムが、

前記第 1 のプログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られたか否かを判断する判断ステップと、

前記判断ステップにてラベルからアドレスが得られていないと判断された場合に、例外処理により前記ラベルからアドレスを得る取得ステップと、

前記取得ステップにて得られたアドレスを前記プログラムに書き込む書込ステップと

を含むコンピュータ可読媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、所定の言語で記述されたプログラムにおいて、ラベルから実効アドレス(絶対アドレス、メモリ内の実際のアドレス)を求めるラベルアドレス変換装置、ラベルアドレス変換方法及びコンピュータ可読媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、C言語、basic、LIPS、APL等のコンピュータ言語で記述されたプログラムにおいて、ラベルから実効アドレスを得るラベルアドレス変換は、ラベルと実効アドレスの関係を示すテーブルを参照すること等によって実行される。

【0003】

例えば、特開平1-258029号公報は、プログラムとデータ領域について夫々の識別名を示す記号列(ラベル)と、記憶装置における格納番地(アドレス)との対応表(テーブル)を備えたデータ処理装置を開示している。このデータ処理装置は、この対応表からプログラムまたはデータ領域の格納番地を得て、プログラムを実行する。

【0004】

また、文毎に変換され解釈されるインタプリタ型言語で記述されたプログラムにおいては、プログラムを実行する度にラベルとアドレスとの関係を示すラベルテーブルが参照され、ラベルに対応する関数や変数の実効アドレスが求められる。

【0005】

また、全ての文が翻訳(コンパイル)されてから実行されるコンパイル型言語で記述されたプログラムにおいては、プログラムを翻訳する度にラベルテーブルから実効アドレスが求められる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、インタプリタ型言語で記述されたプログラムは、プログラムの実行中に本来の処理を中断してラベルテーブルを参照するので、プログラムの実行速度が遅くなるという問題があった。

【0007】

また、コンパイル型言語で記述されたプログラムは、プログラムの翻訳に時間がかかるという問題があった。

さらに、インタプリタ型言語とコンパイル型言語との両方を含む言語で記述されたプログラムは、実行速度にバラツキが生じるという問題があった。

【0008】

本発明は、上記問題に鑑みなされたものであり、インタプリタ型言語で記述されたプログラムについては、実行速度を向上させることができ、コンパイル型言語で記述されたプログラムについては、翻訳速度を向上させることができ、さらに、インタプリタ型言語とコンパイル型言語との両方を含む言語(例えば、Java言語)で記述されたプログラムについては、実行速度のバラツキが生じないラベルアドレス変換装置、ラベルアドレス変換方法及びコンピュータ可読媒体を提供することを目的とする。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上述した課題を解決するために以下の構成を採用する。

即ち、本発明は、プログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換装置であって、前記プログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られているか否かを判断するプログラム処理手段と、前記プログラム処理手段により前記ラベルからアドレスが得られていないと判断されたときに、例外処理により前記ラベルからアドレスを得て、該アドレスを前記プログラムに書き込むラベルアドレス変換手段とからなる(請求項1に対応)。

【 0 0 1 0 】

本発明によると、プログラム処理手段が、プログラムを処理しているときに、ラベルからアドレスが得られていないと判断すると、ラベルアドレス変換手段が、ラベルからアドレスを得て、得られたアドレスをプログラムに書き込む。このように、ラベルから得られたアドレスは、プログラムに書き込まれ、その後、アドレスが書き込まれたプログラムが処理(翻訳)される。このため、プログラムを処理(翻訳)する度にラベルからアドレスを得る必要がない。

【 0 0 1 1 】

従って、インタプリタ型言語で記述されたプログラムについては、一度翻訳されてしまえば、プログラムの実行中に本来の処理を中断してラベルからアドレスを得る必要がない。このため、プログラムの実行速度を向上させることができる。また、コンパイル型言語で記述されたプログラムについては、プログラムの翻訳速度を向上させることができる。さらに、インタプリタ型言語とコンパイル型

言語との両方を含む言語で記述されたプログラムについては、実行速度にバラツキが生じない。

【 0 0 1 2 】

ここで、プログラム処理手段及びラベルアドレス変換手段は、例えば、ラベルからアドレスを得るプログラムをCPUにて実行することにより実現する機能として構成することができる。例えば、コンピュータのメインメモリに例外処理ハンドラが格納され、この例外処理ハンドラがCPUによって実行されることによってラベルアドレス変換手段が実現される。

【 0 0 1 3 】

本発明のラベルアドレス変換装置は、ラベルアドレス変換手段が、前記ラベルと前記アドレスとの関係を示すテーブルを用いるように構成しても良い(請求項2に対応)。

【 0 0 1 4 】

これによって、ラベル名やラベルIDをキーとしてテーブルを検索することによって、ラベルに関連するアドレスを得ることができる。

テーブルは、例えば、コンピュータのメインメモリに格納され、CPUによってアクセスされる。

【 0 0 1 5 】

本発明のラベルアドレス変換装置は、プログラム処理手段が、前記ラベルによって示されるアドレスが実効アドレスでないとき、前記ラベルからアドレスが得られていないと判断するように構成しても良い(請求項3に対応)。

【 0 0 1 6 】

ここで、実アドレスとは、絶対アドレス、メモリ内の実際のアドレス等であり、CPUが直接アクセスできないアドレスを除く。

本発明は、プログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換方法であって、前記プログラムを処理する第1のステップと、前記第1のステップによる該プログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られたか否かを判断する第2のステップと、前記第2のステップにて前記ラベルからアドレスが得られていないと判断された場合に、例外処理により前記ラベルからアドレ

スを得る第3のステップと、前記第3のステップにて得られたアドレスを前記プログラムに書き込む第4のステップとを含む(請求項4に対応)。

【0017】

本発明のラベルアドレス変換方法は、第3のステップにて、得べきアドレスが、前記ラベルと前記アドレスとの関係を示すテーブルから読み出される構成としても良い(請求項5に対応)。

【0018】

本発明のラベルアドレス変換方法は、第2のステップにて、前記ラベルによって示されるアドレスが実効アドレスでないとき、前記ラベルからアドレスが得られていないと判断されるように構成しても良い(請求項6に対応)。

【0019】

本発明は、コンピュータを、第1のプログラムに記述されたラベルからアドレスを得るラベルアドレス変換装置として機能させる第2のプログラムを格納したコンピュータ可読媒体であって、前記第2のプログラムは、前記第1のプログラムの処理時に、前記ラベルからアドレスが得られたか否かを判断する判断ステップと、前記判断ステップにてラベルからアドレスが得られていないと判断された場合に、例外処理により前記ラベルからアドレスを得る取得ステップと、前記取得ステップにて得られたアドレスを前記プログラムに書き込む書込ステップとを含む(請求項7に対応)。

【0020】

コンピュータ可読媒体には、例えば、CD-ROM、フロッピーディスク等の磁気ディスク、ハードディスク、MO等の光磁気ディスク、PD等の光ディスクが含まれる。

【0021】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照しながら本発明の実施形態を説明する。

〈ラベルアドレス変換装置の構成〉

最初に、図1～5を参照して本発明の実施形態によるラベルアドレス変換装置の構成を説明する。図1は、ラベルアドレス変換装置10の構成図である。図2

は、図1に示したプログラム20のソースコードの一例を示す図である、図3は、プログラムが翻訳されたコードの一例を示す図である。図4は、図1に示したラベルテーブル24の一例を示す図である。図5は、図1に示したラベルアドレス変換部18によってアドレスが書き換えられたコードの一例を示す図である。

【0022】

図1に示すように、ラベルアドレス変換装置10は、例えば、パーソナルコンピュータにてラベルアドレス変換プログラムが実行されることによって実現される。ラベルアドレス変換装置10は、CPU12と、CPU12から直接アクセスされるメインメモリ14とを備える。

【0023】

CPU12は、ROM、ハードディスク、磁気ディスク等の記憶装置(何れも図示せず：本発明に係るコンピュータ可読媒体に相当)に記憶されたラベルアドレス変換プログラムを実行することによって、プログラム実行部16(プログラム処理手段に相当)及びラベルアドレス変換部18(ラベルアドレス変換手段に相当)として機能する。

【0024】

また、メインメモリ14には、CPU12によるラベルアドレス変換プログラムの実行によって、処理対象のアプリケーションプログラム20、例外処理ハンドラ22、ラベルとアドレスとの関係を示すラベルテーブル32(テーブルに相当)及びコンパイラ26が展開される。

【0025】

プログラム20のソースコード28は、所定言語、例えば、インタプリタ型言語で、ラベル名(LABEL__B)を用いて記述されている(図2参照)。また、ソースコード28は、ソースコード28に含まれるインタプリタによってコード化される(図3参照)。コード化されたプログラム20は、メインメモリ14に展開され、CPU12によって実行される。

【0026】

図3に示したコード30において、「FLD 10」及び「FLD 20」は、「10」及び「20」をロードすることを示し、「FADD」は、ロードした

“10”と“20”とを加算することを示し、「FSTP DWORD PTR [0xFFFFFFFFFE]」は、加算結果をアドレス“0xFFFFFFFFFE”に格納することを示す。また、コード30には、加算結果を格納すべきアドレスとしての不正データ“0xFFFFFFFFFE”，即ち、プログラム20の実行時にアクセス可能なメモリの範囲外のデータが定義されている。CPU12は、不正データを検出したときに、例外処理を行う設定となっている。例外処理は、通常のプログラム実行処理よりも速い実行速度を有し、本来の実行処理に先立って実行される。

【0027】

ラベルテーブル32は、図1又は図4に示されるように、ラベルID、命令が参照すべき実効アドレス、及びソースコード28に記述されたラベル名を格納する。このラベルテーブル32は、プログラムの翻訳中に作成される。

【0028】

なお、現在のインタプリタ型言語のプログラム編集ツールにおいては、後の実行処理における処理スピード向上のためユーザによるソースプログラムの編集集中に中間コードに翻訳がされるものが一般であり、本実施例のインタプリタ型言語の編集ツールにおいてもソースプログラムの編集集中に翻訳処理がなされるものである。

【0029】

ラベルテーブル32は、図3に示したコードにアドレスとして定義されているラベルID“0xFFFFFFFFFE”と、実効アドレス“0x00050006”と、ラベル名“LABEL B”との対応関係を示す。つまり、ラベルテーブル32を参照することによって、プログラム20に記述されているラベル名及びラベルIDをキーとしてアドレス(実効アドレス)を求めることができる。実効アドレスのアドレス装飾の手法は、絶対アドレッシングか相対アドレッシングかを問わない。

【0030】

図1に戻って、プログラム実行部16は、操作者から入力された実行コマンドによって、メインメモリ14に展開されたプログラム20を実行する。

また、プログラム実行部 16 は、プログラム 20 を実行する間にアドレスを参照する処理を実行する。例えば、プログラム実行部 16 は、ある演算を行い、その演算結果をメモリの所定のアドレスに格納する。このとき、プログラム実行部 16 は、プログラム 20 内に不正なデータ(不正アドレス)が記述されていることを認識すると、プログラム 20 の通常処理以外の例外処理(即ち、ラベルアドレス変換処理)を行う。

【0031】

ラベルアドレス変換部 18 は、例外処理を実行するときに、例外処理ハンドラ 22 を起動する。例外処理ハンドラ 22 は、例外処理の対象となった命令(例えば、「FSTP」)のアドレスと、プログラム 20 のソースコード 28 に記述されているラベルとをキーとしてラベルテーブル 32 を検索し、該当する実効アドレスをラベルテーブル 32 から読み出す。

【0032】

その後、ラベルアドレス変換部 18 は、求めた実効アドレスをコード化されたプログラム 20 に設定する。例えば、図 3 に示す「FSTP DWORD PTR[0xFFFFFFFFE]」は、図 5 に示すように、「FSTP DWORD PTR[0x00050006]」と書き換えられる。この“0x00050006”は、メモリの実効アドレスを示す。

【0033】

ラベルアドレス変換装置 10 によれば、プログラム実行部 16 がプログラム 20 を実行する間に不正データを認識すると、ラベルアドレス変換部 18 が、例外処理ハンドラ 22 を起動させる。続いて、例外処理ハンドラ 22 は、ラベルテーブル 24, 32 を参照することによって、プログラム 20 に定義されたラベルから実効アドレスを求め、求めた実効アドレスをプログラム 20 に設定する。即ち、CPU 12 は、不正データを認識すると例外処理を行い、その後、通常処理を実行する。

【0034】

これによって、アドレスを参照する命令(演算結果をメモリの所定アドレスに格納する命令等)において実効アドレスが設定されると、その後、その命令につ

いては、ラベルからアドレスに変換するための例外処理を行う必要がない。従って、プログラム 20 の実行速度や翻訳速度を向上させることができる。

【 0 0 3 5 】

また、ラベル ID から実効アドレスを求める処理は、CPU 12 (プログラム実行部 16) の例外処理として行われる。例外処理は、通常処理とは異なる手法で、通常処理よりも速い実行速度で実行される。このため、ラベルアドレス変換処理を通常処理と同様の処理で行う場合よりも、翻訳速度を高めることができる。

【 0 0 3 6 】

〈ラベルアドレス変換装置の動作例〉

次に、上述したラベルアドレス変換装置 10 の動作例について説明する。図 6 は、図 1 に示したラベルアドレス変換装置 10 による処理を示すフローチャートであり、図 7 は、図 6 に示した例外処理のフローチャートである。

【 0 0 3 7 】

図 6 に示すように、プログラム 20 の実行が開始されると (S 0 1)、CPU 12 は、プログラム 20 に記述された命令を実行する (S 0 2)。このとき、CPU 12 は、不正データを認識すると、例外処理としてラベルアドレス変換処理を実行する (S 0 3)。

【 0 0 3 8 】

図 7 に示すように、CPU 12 は、プログラム 20 の実行中に不正データを認識すると、例外処理ハンドラ 22 を起動する (S 1 1)。例外処理ハンドラ 22 は、ラベルテーブル 24, 32 を参照し、不正データが記述された命令のアドレス (または、その命令のラベル ID) をキーとして実効アドレスを求める (S 1 2)。続いて、CPU 12 は、その命令に記述されているアドレス (例えば、演算結果を格納するアドレス) を不正データから実効アドレスに書き換える (S 1 3)。

【 0 0 3 9 】

その後、CPU 12 は、実行ポインタ (即ち、処理) を例外処理が認識された命令に戻す (S 1 4)。その命令に記述されたアドレスは、不正データから実効アドレスに書き換えられているので、CPU 12 は、書き換えられたアドレスに基づ

いて命令を実行し(例えば、所定のアドレスに演算結果を格納し)、それ以降の命令を実行する(S15)。

【0040】

以上説明した実施形態によるラベルアドレス変換装置10によれば、ラベルと実効アドレスとの関係を示すラベルテーブル24,32が参照されることによって、プログラム20に記述されている各ラベルが実効アドレスに書き換えられる。これによって、最終的には、処理対象のプログラム20は、ラベルに代えて実効アドレスが書き込まれた状態となる。このため、書き換え後のプログラム20の実行(翻訳)では、ラベルを実効アドレスに変換する必要がないので、ラベルを実効アドレスに変換する処理を省略することができる。

【0041】

従って、プログラム20がインタプリタ型言語で記述されている場合には、プログラム20の実行速度を向上させることができ、プログラム20がコンパイル型言語で記述されている場合には、プログラム20の翻訳速度を向上させることができ、プログラム20がインタプリタ型言語とコンパイル型言語との両方を含む言語(例えば、Java言語)で記述されている場合には、プログラム20に含まれる命令間で実行速度がバラつくことを抑えることができる。

【0042】

【発明の効果】

本発明によるラベルアドレス変換装置、ラベルアドレス変換方法及びコンピュータ可読媒体によれば、プログラムの実行速度や翻訳速度を向上させることができるとともに、プログラムの実行速度のバラツキを抑えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施形態によるラベルアドレス変換装置の構成図

【図2】 図1に示したプログラムのソースコードの一例を示す図

【図3】 プログラムの翻訳により得られたコードの一例を示す図

【図4】 図1に示したラベルテーブルの一例を示す図

【図5】 図1に示したラベルアドレス変換部によってアドレスが書き換えられたコードの一例を示す図

【図 6】 図 1 に示したラベルアドレス変換装置による処理を示すフローチャート

【図 7】 図 6 に示した例外処理を示すフローチャート

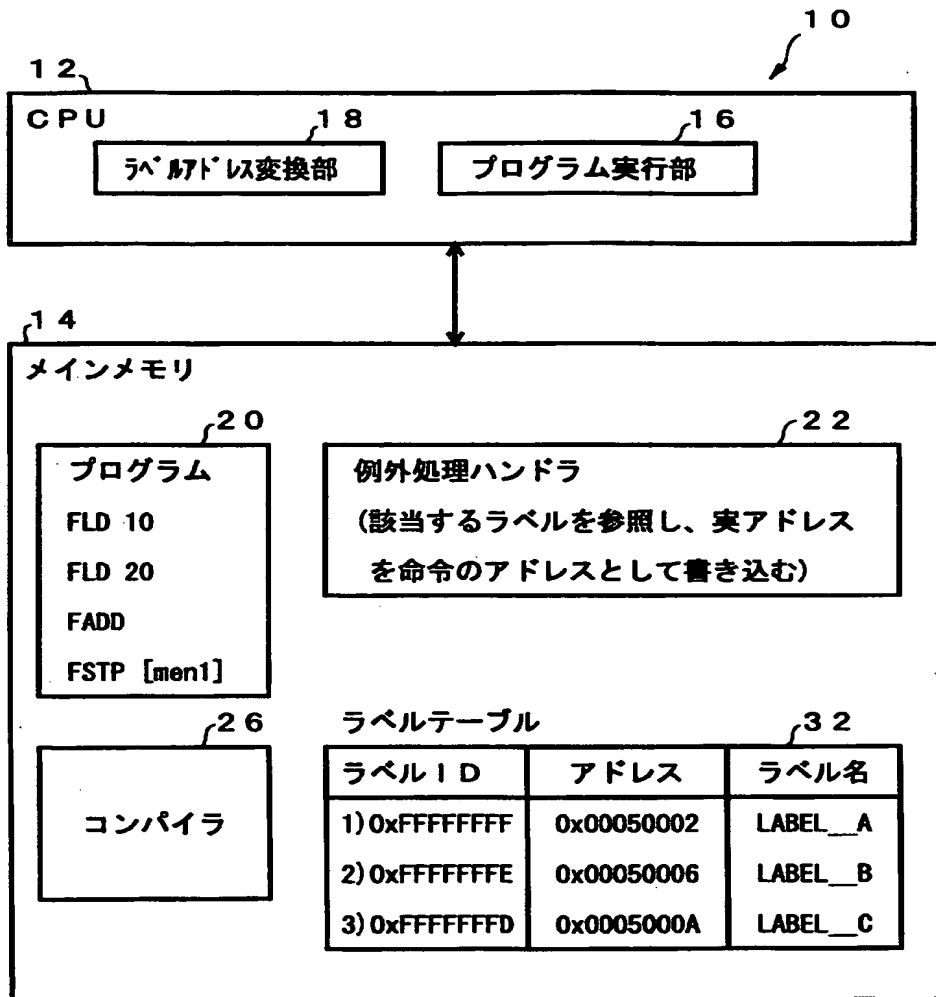
【符号の説明】

- 1 0 ラベルアドレス変換装置
- 1 2 C P U
- 1 4 メインメモリ
- 1 6 プログラム実行部
- 1 8 ラベルアドレス変換部
- 2 0 プログラム
- 2 2 例外処理ハンドラ
- 2 4 ラベルテーブル
- 2 6 コンパイラ
- 2 8 ソースコード
- 3 0 コード

【書類名】 図面

【図 1】

本発明の実施形態によるラベルアドレス変換装置の構成図



【図2】

図1に示したプログラムのソースコードの一例を示す図

28

ソースコード

LABEL_B=10+20

【図3】

プログラムの翻訳によって得られたコードの一例を示す図

30

実行中のアドレス解決される前のコード

FLD 10

FLD 20

FADD

FSTP DWORD PTR[0xFFFFFFFF] ' 7ド'の代わりのラベルID

【図 4】

図 1 に示したラベルテーブルの説明図

ラベル ID	アドレス	ラベル名
1) 0xFFFFFFFF	0x00050002	' LABEL__A
2) 0xFFFFFFFFE	0x00050006	' LABEL__B
3) 0xFFFFFFFFD	0x0005000A	' LABEL__C

【図 5】

ラベルアドレス変換部によってアドレスが書き換えられたコードの一例を示す図

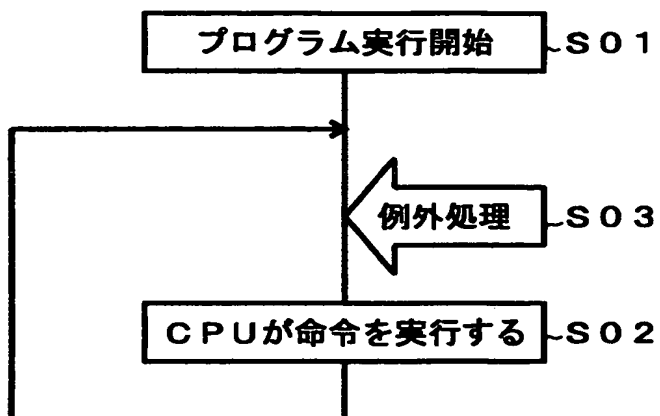
実行中にアドレス解決されたコード

```

FLD 10
FLD 20
FADD
FSTP DWORD PTR[0x00050006]
```

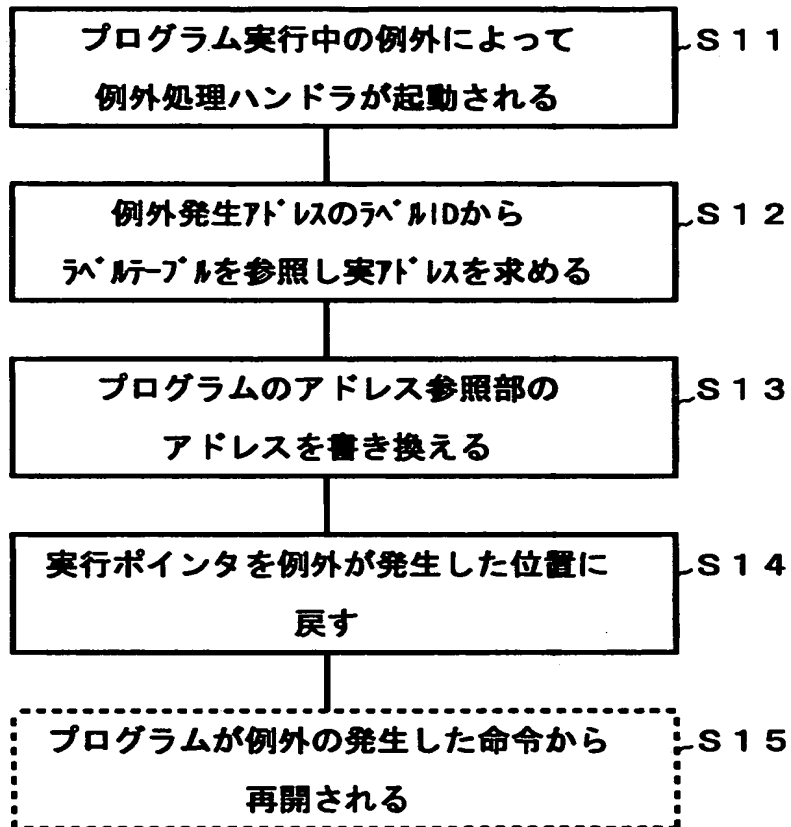
【図 6】

ラベルアドレス変換装置による処理を示すフローチャート



【図7】

図6に示した例外処理を示すフローチャート



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 プログラムの実行速度や翻訳速度を向上させることができるラベルアドレス変換装置を提供する。

【解決手段】 ラベルアドレス変換装置 1 0 は、プログラム 2 0 の処理時にラベルからアドレスが得られているか否かを判断するプログラム処理手段 1 6 と、プログラム処理部 1 6 によってラベルからアドレスが得られていないと判断されたときに、例外処理によってラベルに対応するアドレスをラベルテーブル 3 2 から読み出して、該アドレスをプログラム 2 0 に書き込むラベルアドレス変換手段とを備える。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日 1996年 3月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

氏 名 富士通株式会社